



### 2023 年度の活動紹介

#### 和歌山県生協連第33回通常総会を開催しました

6月27日、第33回通常総会をわかやま市民生協 E\*KA0 ホールにて開催しました。代議員の出席は、実出席19人、委任出席2人、書面出席14人でした。

通常総会は、開会宣言、久保田会長理事の「新型コロナウイルス感染症、ロシアのウクライナへの軍事侵攻、6月初めの豪雨災害、少子・高齢化、円安・物価高など組合員の暮らしをとりまく状況は、厳しさを増しています。助け合いの組織として連携を強化し、県民・組合員へ貢献していきましょう」との挨拶ではじまりました。

全議案を賛成多数で可決し、2023年度の活動方針や予算が決まりました。また理事会後、役員の新体制が決まりました。

#### 役職員研修会で賀川記念館・人と防災未来センターを訪れました。



5月9日、生協で働く若手職員を中心に4生協29人が参加しました。神戸にある賀川記念館では、日本の生協の歴史や賀川豊彦について学びました。その後、阪神淡路大震災の「慰霊と復興のモニュメント」を訪れました。

また「人と防災未来センター」では、語り部による震災体験を聴き、館内の展示品やシアターで自然災害の恐ろしさや震災に備える大切さを学びました。

#### 和歌山大学寄附講義

若い人に労働運動・労働者福祉運動・協同組合運動、それぞれの使命と成果等について広めることを目的にこの寄附講義を実施しています。和歌山県労働者福祉協議会が和歌山大学から依頼を受けて講義を開設し、その構成団体として和歌山県生協連も講義を受け持ちました。(6月15日 JCA、6月22日市民生協、6月29日和歌山中央医療生協)



JCAからは、テーマを「協同組合の基礎知識」とし、日本の協同組合取り組み紹介、世界と日本の協同組合の歴史、アイデンティティについてなど幅広く講義しました(参加44人)。市民生協からは「SDGsについて、生協の社会的役割発揮、エシカル消費」とし、講義の後、グループディスカッションを行ないました(参加49人)。和歌山中央医療生協からは、「医療福祉生協入門」をテーマに、協同組合の原則、生協の歴史を再度振り返り、日本の医療の特徴と医療福祉生協の活動や理念を紹介し、医療福祉生協のめざすものを講義しました。

#### 役職員研修会「監事研修会」で監事の職務と責任について学びました

7月19日、会員生協の役員や監事の職務と責任について学ぶ機会として監事研修会を開催しました。

和歌山県県民生活課より毎年実施されている指導検査の結果から、近年検査で指摘した事項について、生協法などに抵触する事項や、定款に抵触する事項など事例をもとに解りやすく説明いただきました。

また、行政への認可申請についても説明いただきました。さらに、日本生協連法務部より生協法に規定されている監事の職務や権限についての説明があり、監事監査の目的や全体像について学びました。



## 役職員研修会「2024年度 介護保険制度改定に向けた学習会」

8月4日、一般社団法人 全国コープ福祉事業連帯機構 事務局長 白間 勝則氏を講師に招き、2024年度に行なわれる介護保険制度改定や、今後の環境変化、そして生協が果たすべきことについて説明いただきました。



グループ交流では、参加者それぞれが白間氏の講演を受けて、意見や感想、生協が果たすべきことについて活発に交流しました。交流の中で、「制度改定による今後の変化に対応し、組合員の期待に応えたい」「より深く介護保険制度について学ぶ必要がある」「福祉事業の現場をもっと知ってもらいたい」などさまざまな発言がありました。

## 役職員交流会「ボウリング大会」

9月3日、和歌山市のインターボールてんとう虫パークにてボウリング大会を4年ぶりに実施しました。久々に役職員交流会を開催することができました。

募集定員96人で募集しましたが、120人を超える応募があり、急遽5人チーム24レーンを使用し、当日ボウリングには119人が参加しました。

ボウリングでは普段と違う一面をみることや、一緒に楽しむことを通じて職員どうしが交流でき、ボウリング場を貸し切りのため、大いに盛り上がることができました。

会場を移した昼食会には97人が参加し、各賞の表彰を行ないました。「また開催してください」「楽しかった」など参加者からは好評を得ました。



## 第33回和歌山県生協大会

生協大会は、年に一度和歌山県生協連の会員生協の役職員・組合員が一堂に会し、交流と連帯を深め、県内における生協活動の発展につなげることを目的に開催しています。12月6日もハイブリット(会場とオンライン)開催とし、61人の参加がありました。

一部式典では、阿部会長理事の挨拶、続き臨席ご来賓の中から、和歌山県環境生活部県民局長吉富秀明氏、和歌山県農業中央会専務理事前田年史氏、和歌山県労働者福祉協議会副会長武田正利氏、日本生活協同組合連合会関西地連事務局長村上毅氏の4人よりご挨拶をいただきました。

20年永年勤続表彰では県連の会員生協で通算20年以上勤務された8人の功労に対し、表彰状と記念品を贈呈しました。

二部の記念講演は「世界の食品ロス対応」と題し、ジャーナリストで栄養学の博士である食品ロス問題の専門家の井出留美氏に講演いただきました。

食品ロスを減らすために日本や世界で取り組まれていることを紹介。賞味期限と消費期限についても、賞味期限はノルウェーの事例で「多くの場合、その後もおいしく食べられます」と商品に表記することで食品ロスを減らした事例がありました。最後に、私たちにできる食品ロス削減として、「買い物に行く時は小腹を満たすことや、てまえどりすることが食品ロス削減につながるなど」の紹介がありました。



## 和歌山県へ要望書を提出し 回答を受け取りました

毎年、県政の充実強化につながる施策提案や連携、会員生協の事業・運営に関する支援と理解促進を目的に和歌山県に要望書を提出しています。2023年10月4日に和歌山県環境生活部 山本部長に、阿部会長理事から手渡しました。



11月20日に吉富県民局長より回答書を受け取った後、丁寧な説明をいただきました。回答受取後に県民生活課、医務課、健康推進課、こども未来課、労働政策課と意見交換をしました。

## 「防災・災害対策訓練」に参加しました

### ■令和5年度関西広域応援訓練（ワークショップ・図上訓練）

日時：2023年10月27日（金） 10:00～16:10

会場：オンライン（Zoom）

目的：関西広域連合に加盟している団体で非常時の訓練のために開催。また運用マニュアルなどの見直しにもつなげる。

「ワークショップ」では、「緊急物資円滑供給システム」「0次物資拠点運用マニュアル」「応援・受援調整支援システム」を理解しました。民間事業者（NPO法人コメリ災害対策センター、AZ-COM丸和・支援ネットワーク）による情報提供もありました。

「図上訓練」では、最大震度7が和歌山県・徳島県の一部で発生したと仮定して訓練を実施。0次物資拠点開設・運営訓練、物資調整訓練を行ないました。その後、訓練振り返り（ブレイクアウトルーム）を行ないました。

### ■令和5年度和歌山県災害ボランティアセンター連絡会議

日時：2023年10月30日（月） 13:30～16:00

会場：和歌山ビッグ愛 1201号室

目的：和歌山県災害ボランティアセンター協力団体の交流とつながりをつくる

参加者の自己紹介や県災害ボランティアセンターの系譜・機能・役割の紹介

◇県災害ボランティアセンターの系譜・機能・役割、2023年6月の大雨、台風2号被害について南出所長より報告があり、ボランティア数は2,928人（うち社協179人）でした。

◇広域災害への備えと機能について、和歌山県県民生活課 矢代班長より報告がありました。

### ■令和5年度 関西広域応援訓練 実動訓練 参加

主催 関西広域連合広域防災局

日時 2023年11月28日（火）13:00～16:10

場所 兵庫県立三木総合防災公園 陸上競技場

参加 関西災害時物資供給協議会、トラック協会、倉庫協会、小売業（コメリ、ローソン）、製造業（ダイドードリンコ、山崎製パン）、構成府県市（関西6県、堺市）、連携県（三重県）、九州地方知事会、オプザーバー（陸上自衛隊中部方面総監部、国土交通省神戸運輸監理部）、学識経験者（防災科学技術研究所）生協関係（奈良県連、和歌山県連わかやま市民生協）



## 内 容

- ・0次物資拠点の開設に係る手順及び現地における確認事項などについて演習を通じて理解する。倉庫のレイアウトの検討や車両動線、誘導員の配置に関する検討をワークを通じて確認する。
- ・物資の受け入れ時に検討すべき作業現場の安全確保について、ヤマト運輸による安全講習。
- ・物資の搬入・搬出について行政職員主体で行なう手順（パレットの動かし方、リフトの安全確保など）を学ぶ。

おもに行政の担当者の訓練となっており、それに対し民間業者がアドバイスや気付きを伝える内容でした。

## 役職員研修会「協同組合のアイデンティティの見直しについて考える」

国際協同組合同盟（ICA）は現在、「協同組合のアイデンティティ（定義・価値・原則）」の協議を世界で展開しています。JCAも日本でこれに呼応し、2023年度を「話し合いの年」と位置付け、協同組合について話し合うワークショップの開催を呼びかけています。

2024年2月21日の役職員研修会では、見直しを予定している「協同組合のアイデンティティ」の内容や今後のながれについて学びました。ワークショップでは「協同組合があって良かったと思うのはどんな時？」「これからの協同組合のありたい姿」などをグループで話しあいました。

最後にグループ発表として「これからの協同組合のありたい姿」を発表しました。

### 【当日出された「これからの協同組合のありたい姿」】

- ・組合員の願いを実現するために協同組合などの地域諸団体と連携し認知度を高め事業を伸長させる組織
- ・原則は大切にしつつ時代の変化とともにスタイリッシュ（な組織）
- ・人と人とがつながり、くらしになくてはならない組織
- ・ゆりかごから墓場まで頼れる組織



## 厚生労働大臣表彰を受賞しました。

第75回、厚生労働大臣表彰があり、和歌山県生活協同組合連合会が表彰されました。

厚生労働大臣表彰は、昭和23年(1948)年に制定された消費生活協同組合法を記念して、5年ごとに行われるもので、健全な事業運営を行い、他の模範と認められる組合・連合会に対し、その功績をたたえるために実施されるものです。

今回は、法制定75周年を記念して31の組合・連合会と29名の役員が表彰されました。



## 関係諸団体との連携

### 第 17 回国際協同組合デー in 和歌山

2023 年 7 月 5 日（水）、金丸 弘美氏（作家）による記念講演「食の自給率向上と食による地域づくり」に参加しました。県連からは 29 人が参加しました。全体では 108 人の参加がありました。

### 第 40 回生協まつり

2023 年 10 月 15 日（日）、コロナ禍後はじめての「生協まつり」に県連として後援しました。また、協同組合組織連絡会として出店し、売上の一部が東日本大震災の支援につながる「お山のマドレーヌ」を販売しました。



### 一斉クリーンウォーク in 和歌山

2024 年 3 月 2 日（土）自分たちの身近な地域を散策しながら地域の美化活動にとりくむ「クリーン・ウォーク」は、協同組合相互の連帯強化と参加者相互の連帯意識の高揚をはかるとともに、協同組合運動を認識する機会をめざしています。JAグループ和歌山・和歌山県 JA 女性組織連絡会・和歌山県生活協同組合連合会・和歌山県漁業協同組合連合会・和歌山県森林組合連合会の職員など 53 人が参加し、和歌山城周辺を約 1 時間かけて清掃しました。和歌山県生協連からは 15 人が参加しました。（県内他地域でクリーンウォークに 750 人が参加）2019 年度よりコロナ禍により規模を縮小して実施してきましたが、今年は参加者を募り実施しました。



当日の様子は、和歌山放送、テレビ和歌山、わかやま新報でも報道されました。

# 和歌山県 生協連合会 の会員生協 2023 活動紹介

\*数値は 2023 年 3 月現在  
\*泉南生協、コープ自然派お  
おさかは、和歌山県内の数値  
です。



## 和歌山中央医療生活協同組合

- 組合員数:23,308 人
- 総事業高:3,925,444 千円
- 住 所:和歌山市有本 143-1

和歌山中央医療生協では、医療・介護・福祉の事業や組合員の諸活動等、地域に根ざした事業と活動を積極的にすすめています。

人生 100 年時代を迎え、個々の健康観も変化しつつある中、私たちは健康とは何かを見つめ直し、一人ひとりの生き方が大切にされ、誰もが居心地よくらせるまちづくりにも挑戦しています。また、平和な世界、持続可能な世界、人権が大切にされる誰一人取り残されない社会をめざし取り組んでいます。



## 和歌山県学校生活協同組合

- 組合員数:8,447 人
- 総事業高:135,904 千円
- 住 所:和歌山市小松原通 3-20

和歌山県学校生協は、より良い商品を安く提供し、教職員のくらしと教育活動をサポートするために、チラシ媒体による供給事業と生活全般に渡るサービス関連事業等を行っています。

また、学校生協を知っていただくきっかけ作りと、災害被災地や福祉活動などへの支援を行うために、年 2 回「利用運動」を実施しています。「利用運動」の供給高の一部を災害支援等に寄付を行っています。また、最近 20 代 30 代の教職員が増えているので、住宅づくりのサポートとして「ハウジングセミナー」に取り組んでいます。今後とも教職員の教育活動やライフサポートを中心に行っていきます。



## 和歌山県労働者共済生活協同組合

- 組合員数:90,243 人
- 総事業高:8,378,027 千円
- 住 所:和歌山市美園町 5-10-3

和歌山全労済（こくみん共済 coop 和歌山推進本部）は、「みんなでたすけあい、豊かで安心できる社会づくり」という理念のもと、幅広く共済事業を展開しています。2022 年度は和歌山推進本部の発展を目的として、既存の手法や慣習に捉われない取り組みを企画・検討する「デジタルプロジェクト」を設置しました。

「デジタルプロジェクト」は組合員との繋がりを広げ、組合員からより距離が近い存在になるよう取り組んでまいります。



## わかやま市民生活協同組合

- 組合員数:99,740 人
- 総事業高:12,823,449 千円
- 住 所:和歌山市太田三丁目 10-10

10 月 15 日(日)、4 年ぶりに「かがやけ和歌山 広げよう平和・くらし・健康の“和”」をテーマに生協まつりを開催しました。平和コンサートとして広島で被爆したピアノが和歌山にくる「ヒロシマ被爆ピアノコンサート」を開催しました。

また、原料高騰による商品値上げが相次ぐ中で「くらし応援キャンペーン」として、CO・OP 商品を中心に食用油・乳製品など約 90 品をくらし応援価格で提供しています。

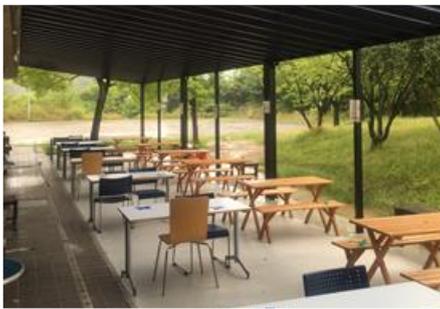


## 紀の国医療生活協同組合

- 組合員数:1,356 人
- 総事業高:459,120 千円
- 住 所:和歌山市今福 2-1-16

当生協は、今福にある「今福診療所」において一般診療および認知症外来と介護事業を行っています。また新堀にある「ほっと生活館しんぼり」ではデイサービスや訪問介護、高齢者住宅を運営しています。

私たちは、介護保険制度ができる前から介護事業を行っている先駆者として、誰もが「自分らしさ」を失うことなく、住み慣れたところで安心して暮らし続けることができるよう、医療と介護の両側面からお手伝いをさせていただきます。



### 和歌山大学消費生活協同組合

- 組合員数:4,363 人
- 総事業高:368,730 千円
- 住 所:和歌山市栄谷 930

今年度も、オンライン講義が一定継続して行われていることもあり、キャンパス人口はまだ減少したままの状態です。和歌山大学生協としても経営基盤の再構築が求められており、この変化への対応が今後重要となってきます。また今後は、施設、設備への投資が必要なため効率を重視した運営方法も必要です。特に日々利用される、食堂、コンビニ分野においては運営方法の拡大、利用の少ない分野については縮小も視野に早急な対応を進めています。



### 和歌山県立医科大学生生活協同組合

- 組合員数:1,532 人
- 総事業高:217,548 千円
- 住 所:和歌山市紀三井寺 811-1

今年度も、コロナウイルス感染拡大の影響で昨年同様、事業環境としては厳しい状況にあります。このような中でも、従業員一人一人が知恵を出し合い行動することで、少しでも店舗が活性化できるよう取組みを継続しています。それらの活動を通して、より一層大学内の福利厚生への貢献に繋げ、組合員が安心して勉学、研究に励めるよう、事業活動の高次化を進めています。



### 和歌山高齢者生活協同組合

- 組合員数:4,093 人
- 総事業高:432,744 千円
- 住 所:和歌山市直川 565-7

和歌山市直川への「本部移転」にあわせ併設で、「ケアプランセンター設置」と「福祉用具販売・貸与事業所を開設」することになりました。福祉用具事業は、安心安全な在宅生活をサポートする大切な事業です。この度、わかやま市民協さんのご協力で、コープ岩出中央店、コープ中之島店に来場される市民・組合員さんに「福祉用具体験会・介護相談会」を好評の内に実施させていただきました。心強い協同組合間連携に感謝です。



### 泉南生活協同組合

- 組合員数:1,789 人
- 総事業高:651,616 千円
- 住 所:大阪府泉南市信達岡中 1489-10

2022年8月に大阪府泉南郡熊取町にサービス付き高齢者向け住宅「おひさま熊取」を開所しました。全92室は大阪府下で最大。2023年2月末時点で53室の入居が決まりました。泉南生協では堺市から和歌山市にのみ（介護付き住宅）4棟、マスターズマンション（分譲）3棟、おひさま（サービス付き高齢者向け住宅）3棟を運営し、約1,000名の方が入居されています。

入居者の食事や社会福祉法人野のはなが運営しているレストランや喫茶店で使う野菜はほとんどが市販品です。それを生産者の顔が見える野菜に切り替える取り組みを始めました。



### メルスィー生活協同組合

- 組合員数:6,644 人
- 総事業高:447,066 千円
- 住 所:和歌山市湊 1850 番地

メルスィー生活協同組合は、日本製鉄（株）関西製鉄所（和歌山地区）において「職域生協」として構内で働く従業員の福利厚生施策のため、1952年に設立されました。現在製鉄所内売店は9店舗（和歌山、海南、堺）展開しており高度成長期と共に発展し、鉄鋼不況、新型コロナ禍等、幾多の困難もありましたが、組合員の皆様方からのご支援と協力に支えられて、2024年2月に創立73年目を迎えます。今年は新型コロナ対応も緩和され一部店舗では以前より営業時間を延長しています。製鉄所で働く組合員の皆様方のために「もっと便利に、簡単に」「より親しみある」生協を目指し役職員一同日々の業務に励んでいます。



### 生活協同組合コープ自然派おおさか

- 組合員数:8,387 人
- 総事業高:1,017,755 千円
- 住 所:和歌山県和歌山市岩橋 998

(本部：大阪府茨木市島1丁目12-37)

コープ自然派おおさかは、食の安心・安全と農業を次の世代へとつないでいくために「国産派宣言」を掲げ「誰もが有機農産物を食べることができる社会づくり」をめざしています。2022年4月より和歌山市岩橋に配送センターを構え宅配事業及び組合員活動ともにより活発になってきました。「学校給食にオーガニック食材を」という取組や支援が必要な家族や施設を対象に食材をお届けする取り組み「子ども笑顔基金プロジェクト」も継続し実施しています。

## 今後の活動紹介

消費者ネットワークわかやま  
第14回総会のご案内  
記念落語会

桂 枝曾丸さん

日時：2024年4月20日（土）

第14回総会 13:00～13:45

記念落語会 14:00～15:30

場所：和歌山ビッグ愛  
12階（1201号室）

参加：無料

※詳細についてはネットワークHPにて、  
ご案内します。

役職員研修会  
賀川記念館と  
人と防災未来センター見学

日時：2024年5月8日（水）

会員生協の役職員対象 定員 50人

スケジュール（予定）

8:30 JR和歌山駅 東口出発

10:30～12:20 賀川記念館

12:30～12:40 慰霊と復興のモニュメント

13:00～14:00 昼食

14:10～16:25 人と防災未来センター

18:10 和歌山駅 東口到着（予定）

※お申込みは所属の各生協まで。



## ホットな消費者見守りニュース 84号

～消費者被害にあわないための最新情報をお届けします！～

### ホットな消費者見守りニュース 84号

義援金の募集を装ってお金をだまし取る詐欺にご注意ください！

**ポイント**

- 能登半島地震に便乗し、義援金をかたった詐欺などが増えるおそれがあります。
- 実在する団体や公的機関を名乗り、電話・メール・SNS・自宅訪問などで、義援金への協力を呼びかけ、本来の口座とは異なる口座に、義援金を振り込ませようとするケースがあるため、注意が必要です。
- 義援金は、募っている団体等の活動状況や使途をよく確認し、納得した上で寄付しましょう。義援金を口座に振り込む場合は、振込先の名義をよく確認しましょう。
- 少しでも不審に思ったら、消費生活センターや警察（最寄りの警察本部・警察署又は警察相談専用電話（＃9110）番）に相談するようにしましょう。

### 和歌山県消費生活センター

和歌山市手平2丁目1-2

県民プラザ和歌山ビッグ愛 8F

電話：073-433-1551

FAX：073-433-3904

（月～金）9:00～17:00

（土・日）10:00～16:00

（電話相談のみ）

（祝日・年末年始を除く）

### 和歌山県消費生活センター 紀南支所

田辺市朝日ヶ丘23番1号

県西牟婁総合庁舎内

電話：0739-24-0999

FAX：0739-26-7943

（月～金）9:00～17:00

（祝日・年末年始を除く）

\*短縮ダイヤル☎188でもお近くの相談窓口につながります。

## 協同組合がよりよい社会を築きます

- 和歌山中央医療生活協同組合 ●わかやま市民生活協同組合 ●和歌山県学校生活協同組合
- 和歌山県労働者共済生活協同組合 ●泉南生活協同組合 ●紀の国医療生活協同組合
- 和歌山大学消費生活協同組合 ●和歌山県立医科大学生生活協同組合 ●和歌山高齢者生活協同組合
- メルシー生活協同組合 ●生活協同組合コープ自然派おおさか